

矢崎グループのCSR

これまで矢崎グループは、CSR方針の具現化を図りながら、着実にCSRを実践してきました。今後も持続可能な社会の実現に貢献していくために、長期的かつ広範な視野に立ち、より能動的にCSRを実践すべきとの認識に基づき取り組んでまいります。

CSR方針

矢崎グループの社是である「世界とともにある企業」「社会から必要とされる企業」は、社会からの信頼と期待に応えることにより実現します。私たちは、経営基本方針に基づき、常にステークホルダーの声に耳を傾け、ここに定めた方針を事業活動を通じ、実践することにより社会の持続可能な発展に貢献することをめざします。

私たちは、お取引先がこの方針に賛同し、ともに行動するよう働きかけます。

お客様

- お客様の期待および関係法令や規格に基づき、安全で高品質な製品とサービスを提供します。
- お客様の視点に立ち、製品に関する必要な情報を適切に提供します。
- 開発の成果は知的財産権によって保護し、積極的に活用するとともに、他者の正当な知的財産権を尊重します。
- 業務上知り得たお客様の個人情報を含むさまざまな機密情報を、厳重に管理・保護します。
- 事業を取り巻く予測可能なあらゆるリスクの予防に努めます。万が一、緊急事態が起こった際に従業員や地域住民の人命を最優先に行動するとともに、事業を継続できるよう取り組みます。

地域社会／国際社会

- 各国の文化・法令などを尊重し、あらゆる企業活動において関係法令およびこの方針をはじめとする定められたルールを遵守します。
- 事業活動を行う国や地域の輸出入管理に関する法令などを遵守します。
- 公務員や政治家に対する贈賄を禁止し、行政機関などとの健全かつ透明性ある関係を維持します。
- 地域社会の一員として豊かな社会づくりをめざし、積極的に対話するとともに社会貢献活動を推進します。

地球環境

- 矢崎地球環境憲章に基づき、次世代に豊かな地球環境を引き継ぐために環境保全活動を積極的に推進します。

お取引先

- お取引先と公平・公正かつ透明性ある関係を維持し、誠実な取引を行います。
- 各国・地域の公正競争を維持するための法令などを遵守します。
- 調達活動においても人権、環境などこの方針で定められた課題へ配慮します。

従業員

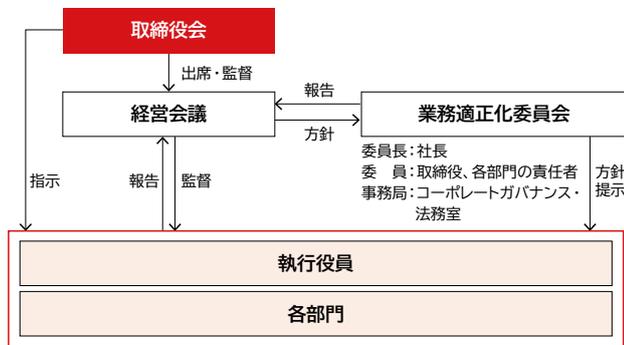
- 誠実な対話を通じ、従業員との信頼を構築します。
- 従業員の多様性を尊重し、均等な雇用機会を提供するとともに、差別を行いません。
- 人権を尊重し、これを侵害することは認めません。また、強制労働や児童労働は行いません。
- 賃金、労働時間をはじめとする労働に関する法令を遵守するとともに、全従業員に対し公正な労働条件を提供し、安全で健康的な労働環境を維持します。
- 従業員の人材育成に積極的に取り組み、能力や創造性の向上を支援します。

CSR推進体制

国内矢崎グループでは、コーポレートガバナンス・法務室が事務局となり、CSR連絡会を開催しています。定期的に開催される同連絡会では、CSR機能部門の部長職者が集まり、各部門のCSR推進状況の確認や課題把握、CSRに関する情報共有などを行っています。

また、社長が委員長を務め、取締役、各部門の責任者を構成メンバーとする業務適正化委員会において、矢崎グループのCSRに関する重要事項の検討および審議を行っています。

CSR推進体制図



行動基準

矢崎グループでは、従業員一人ひとりがCSR方針を実践するために取るべき行動の基準を定めています。

国内矢崎グループでは、CSR方針や行動基準、各種相談窓口の情報などを一冊にまとめた「行動基準ハンドブック」を発行し、子会社を含む全従業員に配布しています。また、海外子会社では、行動基準をベースに各国・地域の法令や慣習、および各事業所における規定などを踏まえたローカライズ版を制定しています。

独自の行動基準を運用している一部の子会社については、本社と対話し、矢崎グループ従業員が守るべき行動基準の共有を図っています。

行動基準を徹底することで、従業員一人ひとりが社会的責任を果たせるよう、グローバルで一体となった活動を推進していきます。

各国版の行動基準ハンドブック



ステークホルダーとの関わり

世界45カ国で事業を展開する矢崎グループの事業はさまざまなステークホルダーとの関わりのおかげで成立しています。建設的な対話を通じて、ステークホルダーの皆様との信頼関係を構築し、その期待や要請に応えるように取り組んでいきます。

ステークホルダー	対話の機会の例
お客様	<ul style="list-style-type: none"> ● 営業活動 ● 顧客満足度調査
地域社会／国際社会	<ul style="list-style-type: none"> ● 矢崎サマーキャンプ ● 次世代育成支援(学習支援など) ● ステークホルダーミーティング
地球環境	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境教育の実施 ● 生物多様性保全活動
お取引先	<ul style="list-style-type: none"> ● グローバル仕入先総会 ● 矢栄会 ● 取引先説明会
従業員	<ul style="list-style-type: none"> ● 労務検討委員会 ● 従業員満足度調査 ● 矢崎塾 ● 矢崎企業文化研修

SDGsへの対応

矢崎グループは、世界各国で広く事業を展開する企業であるという認識のもとSDGs^{*}の達成に貢献していきます。

2018年度は、重点課題の特定にあたってSDGsも考慮し、矢崎グループの事業が及ぼすポジティブ／ネガティブな影響の特定と、事業活動を通して貢献可能な事業領域を検討しました。



^{*}SDGsとは、2015年に国連で採択された「持続可能な開発目標」(SDGs: Sustainable Development Goals)であり、2030年を目標に、貧困や飢餓、エネルギー、気候変動などの社会課題を解決することをめざすもので、17の目標と169のターゲットで構成されています。すべての国や人々が当事者意識を持ち、互いに協力し合いながら、その達成に向けて行動することが期待されています。

矢崎グループCSR推進上の重点課題

企業の環境・社会側面の取り組みが企業価値や取引などに及ぼす影響は年々高まっています。そうした背景を受け、外部環境が自社に及ぼす影響と、事業活動が社会に及ぼす影響を把握し、管理していくことが重要と考え、社会課題の解決と矢崎グループの持続的成長を両立すべく、専門家の意見も取り入れながら、優先的に取り組むCSR推進上の重点課題（以下、重点課題）を特定しました。

重点課題の特定プロセス

STEP
1

CSRの理解・認識および課題の抽出

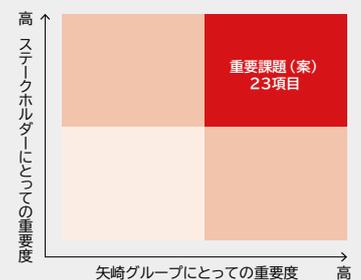
- 重点課題特定の背景やCSR推進活動に関してCSR連絡会メンバーに共有し、CSRの理解を深める。
- CSRの国際基準（GRI、SDGs、ISO26000）、規範類（経団連企業行動憲章など）、顧客からの期待・要請などから社会課題を抽出してリスト化。

STEP
2

重点課題（案）の特定



- 各課題について関連部門が「ステークホルダーにとっての重要度」と「矢崎グループにとっての重要度」の2軸で評価し、その評価をもとにマトリクスを作成し、優先度の高い課題を特定。
- CSR連絡会メンバーに共有のうえ妥当性評価を実施し、重点課題（案）23項目を仮決定。
- 23項目に対して、矢崎グループの事業が及ぼすポジティブ／ネガティブな影響の特定と、事業活動を通してSDGsに貢献可能な事業領域を検討。



STEP
3

妥当性評価 ● 外部識者による重点課題（案）の妥当性評価を実施。

自社にとっての重要度とステークホルダーにとっての重要度という2軸で全社的な討論と検討を重ねたなかから設定された6つの重点課題は、いずれも、企業活動の外と内を取り巻く重要な課題であり、妥当だと評価できます。

「社会の豊かさ向上のためのソリューション提供」は、経済環境の変化に対応して事業内容を転換する際にも常に地域を一番に考え、事業を通じて地域の社会課題解決に貢献してきた矢崎らしさを踏まえたものです。また、矢崎につながるすべての人々の幸せを常に考えるというDNAは、「地域社会発展への貢献」へとつながっており、この2つは基軸となる重点課題だと考えます。その意味では、「地域社会発展への貢献」はもう少し課題の中身が見える表現の方がいいのかもしれませんが、「グローバル環境マネジメントシステムの強化」は「健全かつ強固なサプライチェーンの構築」にもまたがる重要な課題だと考えられ、少し整理を検討してもよいかもしれません。

今後、設定された重点課題に基づいて、取り組んでいるCSR活動の意義を再度評価するとともに、ステークホルダーとの間で重点課題を踏まえたコミュニケーションが活発に展開されることを期待しています。



日本福祉大学 執行役員
国際福祉開発学部 教授
ちかみ さとし
千頭 聡 氏

STEP
4

重点課題の特定

- 2019年8月の経営会議にて経営層の承認を得て、6分野（23項目）を重点課題として決定。

特定した重点課題

		貢献し得るSDGs
社会の豊かさ向上のためのソリューション提供	<ul style="list-style-type: none"> ● 安全で高品質な製品・サービスの提供 ● オープンイノベーションの推進 ● 事業を通じた社会課題の解決 	
健全かつ強固なサプライチェーンの構築	<ul style="list-style-type: none"> ● CSR調達の推進 ● 人権の尊重 	
真に強い組織の確立	<ul style="list-style-type: none"> ● ダイバーシティの推進 ● 効率的な働き方の推進 ● 従業員の満足度の向上 ● 次代を担う人材の育成 ● 人権の尊重 ● 健康経営の推進と労働安全衛生の強化 	
地域社会発展への貢献	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域社会発展への貢献 	
グローバル環境マネジメントシステムの強化	<ul style="list-style-type: none"> ● グローバル環境マネジメントシステムの強化 ● 汚染防止 ● 生物多様性の保全 ● 有害化学物質管理の徹底 ● 気候変動の緩和と適応 ● 資源の有効利用 ● 水問題への対応 	
グローバルなガバナンス、内部統制の強化	<ul style="list-style-type: none"> ● 経営の健全性、効率性、透明性の確保 ● リスクマネジメント・BCMの強化 ● コンプライアンスの徹底 ● あらゆる形態の腐敗防止 ● 企業風土の醸成 	

今後に向けて

今後は特定した重点課題と中長期の事業戦略や各部門の方針・ミッションを紐づけ、目標管理を実施し、取り組みの成果や課題などの進捗についてはCSR REPORTで報告していきます。また、今回特定した重点課題は社会動向や矢崎グループの方向性と照らして適宜見直していきます。